



あいかんきょう



2010/10/01

会報・第105号



「ヨシノボリ」

撮影地：沖縄県西表島

提供：(株)環境科学研究所
荒尾一樹氏

四季折々

盆を過ぎれば朝夕は涼しくなるというのが通例であったが、この原稿を書いている八月の終わりでも暑さの勢いは衰えず、相変わらず猛暑の日が続いている▼新聞によれば、この猛暑はラニーニャ現象によるものだという。ペルー沖の深海から海水が上昇し水温が下がる。暖かい海水が西側に吹き寄せられインドネシアやフィリピン付近で海水温が高くなり、活発になった上昇気流が日本に下降して高温をもたらすという▼この記事を読んで、寺田寅彦の随筆「茶碗の湯」を思い出した。「ここに茶碗がひとつあります。中には熱い湯がいっぱい入っています」で始まるこの随筆は、茶碗から立ち上る湯気の観察にはじまり、水の対流、雲や霧の凝結、湯気の渦や竜巻、モンスーンへと広がっていく▼茶碗の湯を太平洋に見立てた時、ラニーニャ現象と云うのはどんな条件で起きるのであるかと考えてみた。異常気象というのとは一種の熱エネルギーの偏在であろうから、起こるとすれば何らかの外的要因が加わるはずである▼茶碗を日光に当てれば部分的な温度差が起きて対流や気流が変化する。地球規模でみた外的要因とは、われわれの日常活動におけるエネルギーの大量消費もその一つではないかと想像するのである。

研修会聴講記

平成二十二年度

「初級統計研修会」

に参加して

(株)エステム

環境調査センター 水野 智絵

七月九日に初級統計研修会に参加しました。今回、学んだことや感想を述べたいと思います。

「基本統計量」では、誤差の考え方や数値の取り扱い方の基本的なルール、正規分布の性質について学びました。日常の業務において、誤差や数値の取扱い方などは基本中の基本であり、改めて普段からもっと意識せねばならないと思いました。

「パソコンによる統計計算」では、エクセルによる統計計算について実際にエクセルを用いて実践的に学びました。

「外れ値の検定」では、Zスコアでのデータの評価についてエクセルを用いて実践的に学びました。Zスコアは業務において使用する事があるのですが、意味をあまり深く考えた事がなかったので、研修の後ではどうやって作られたかがよく理解できました。

「検定、推定と分散分析」

では、エクセルで色々な統計的検定を用いて母集団の特性を調べました。検定と一口に言っても色々な検定があり、どのような場面で用いるなど、具体的なお話がありました。

非常に有意義な一日で勉強になりました。実務に活かすチャンスがあれば活かしていきたいと思っております。



(株)テクノ中部

測定分析部 松本 貴郁

七月九日にウィルあいちで開催された「初級統計研修会」に参加させていただきました。

統計処理の研修ということだろーと思いつきながら、当日参加したのを憶えています。

研修会では当日配られたテキストを基に進められ、始め

に誤差や数値の扱い方、正規分布など統計処理での基本的なことを学びました。

普段から使用している数値の扱い方のしっかりした説明、真度や精度、正確さなどといった用語の定義を改めて学ぶことができました。

エクセルを使用した統計計算では、エクセルの分析ツールの説明を受け、使い方を教えていただきながら例題を解いていきました。普段からあまりエクセルでの計算式に携わっていない為、一部計算式の入力方法がわからない所がありました。そこを教えていただいた後はテキストを見て調べながら解き進むことが出来ました。

その後は当日配布された演習問題を解き、提出して研修は終了となりました。

演習問題では一つ一つの問題に時間が掛かってしまい、時間ギリギリまでパソコンと睨めっこしていました。

今回の研修では今まで知らなかった統計処理の内容やそれに伴うエクセルの使い方、教えていただいたので、それを今後の業務に活かせるようにしていきたいと思えます。

平成二十二年度

「中堅実務者研修会」

に参加して

(社)愛知県薬剤師会

衛生試験部 吉村 香

九月九・十日に開催された「中堅実務者研修会」に参加して、精度管理や、エクセルを使っての統計処理など、分析技術者にとって必要なことを学ぶことができ、非常に勉強になりました。

「サンプリングにおける精度管理」及び、「機器分析における精度管理」においては、環境分析についての必要性や特徴、精度管理、環境水のサンプリング等を勉強しました。普段は飲用水等の衛生関係の分析を行なっているため、環境分析について学ぶことができ、とてもいい機会になりました。

また「基本統計量」及び、「検定・分散分析と不確かさの検出」においては、普段な

かったZスコアや検定について学ぶことができ、非常に勉強になりました。演習では、実際にエクセルを使用し、Zスコア及び試験所内のかたよ

り評価、試験所内のばらつき評価の算出を行いました。今後はこのような統計処理に関する理解を活かし、分析及びデータ管理を行なっていきます。また、エクセルの分析ツールを使用し、F検定、t検定、分散分析のやり方も学びました。実際に手で行なうととても面倒な計算が、分析ツールの使用により、非常に簡単に検定を行なうことができました。早速これからこの方法を利用して、業務の効率化に繋げていこうと思えます。



委員会からの報告

総務委員会

委員長 大場 和子

本年度 第二回委員会を、七月二日に開催しました。

①正会員新規入会について

太平産業(株)(豊田市内)から、正会員の入会申込みがあり、当委員会にて審査しました。結果を理事会へ報告しました。

②景況調査について

昨年度に引き続き、正会員の経営実状を把握するために、二十二年九月中旬に、アンケート式で実施します。会員のご協力をお願いします。

企画委員会

委員長 山本 英治

「ISO/IEC17025を学ぶ」研修会の第一講座

「技術的要求事項」(講師・服部寛和/株ユニケミー)は十一月二十六日にウインクあいちで開催します。ISO17025を導入することにより「精度管理を保証できる仕組み」をどのように実現するのか、事例を中心に実践的な内容を企画していきます。

第二講座「不確かさ」(講師・牧原大/株環境科学研究所)は平成二十三年二月上旬に予定しています。

教育・研修委員会

委員長 大野 哲

七月九日にウイルあいちにて基礎編となる「初級統計研修会」(化学分析におけるデータの統計処理)を開催しました。

講師として、五十嵐克己(株)ユニケミー、長尾隆宏(株)愛知県薬剤師会、夏目訓良(株)東海分析化学研究所の三名が就き、十四名の参加者がパソコンを実際に操作しながら統計処理を学びました。統計処理は、技術者にとって欠かせない作業の為、参加者は真剣に受講していました。

九月九・十日には中堅実務者研修会(名古屋国際会議場)を、応用編となる統計講義を含めて開催しました。また十一月十九日には、環境計量士等研修会を予定しております。多数のご参加をお願いします。

広報委員会

委員長 西脇 光正

本年度 第二回委員会を、八月三日に開催し、広報誌一〇五号の掲載記事について協議しました。

十月二十一・二十二日に開催される平成二十二年第十

八回日環境・環境セミナー全国大会 in Nagoya (以下、日環協環境セミナーとする)のPR用チラシの校正と講演等のタイムスケジュールの検討を行いました。

技術委員会

委員長 長尾 隆宏

水質・土壌ワーキング 第一回共同実験を模擬排水中の全窒素、全りんを対象として参加機関は、五十二社(県内三十七社、県外十五社)で実施しました。実験結果はZスコア法を用いて現在解析中で、十一月に中間報告をホームページに掲載すると共に、十二月には実験報告会を開催する予定です。

また、日環協環境セミナーに愛環協技術委員会から「水質分析共同実験(クロスチェック)について」と題しての技術発表の準備を進めています。

大気・悪臭ワーキング 平成二十三年一月または二月に実施する勉強会について検討していますが、次回に詳細を報告します。

騒音・振動ワーキング 十一月に実施予定の第二回共同実験については、新幹線の騒音測定を計画しております。多数のご参加をお願いします。

対外交流委員会

委員長 宇野 孝

九月一日に委員会を開催し、日環協環境セミナーにおける来賓、特別講演者、司会者に係る諸準備について、議論を行いました。

来賓、特別講演者の現在の予定者を確認するとともに、事前案内及び挨拶について検討しました。特に、司会の方(今回はプロのアナウンサー)とは当日の段取りが必要なことから、全体のシナリオ完成後、十月初旬を目処に訪問し打ち合わせを実施することとしました。

当日のスケジュールについて確認し、各委員が行う当日の案内、誘導、控室について会場図面を参考に検討しました。

パンフレットについて、各社の取引先、お客様等への案内を継続して実施していくことを確認しました。

ホームページ委員会

委員長 金田 哲夫

委員会を六月三十日、八月二十七日に開催し、ホームページの更新作業を七月二十八日に実施しました。

作業として、ホームページのメンテナンス及び更新を行います。

検討事項として、委員会紹介の開催資料の提出方法及びフォトコンテストについての応募要項等の詳細を検討しました。

ブロック会議報告

第一ブロック

ブロック長 宇野 孝

八月二十五日に十一社十四名の参加で行いました。今回の会議では、水濁法等の改正について愛知県環境部の岩田主幹からお話を伺いました。

また、同じく愛知県の木下室長補佐からは産業廃棄物の電子マニフェストに関するお話があり、いずれも貴重な情報をご披露いただき、有意義な会議となりました。

続いて、行事予定等の紹介の後、濱地会長から環境省関連の情報としてPCB分析マニュアルや外部委託をする場合の精度管理に関する紹介がありました。

会議終了後は、有志による恒例の懇親会を行いました。

第二ブロック

ブロック長 鎌田 務

八月十日に十二社十二名の参加で行いました。会議の内容は次のとおりで、

①「水質汚濁防止法等の改正について」愛知県環境部水地盤環境課規制・土壌グループ主査大谷真弓様より講演

をいただき、併せて環境部資源循環推進課廃棄物監視指導室指導グループ技師岩川誠様より「県電子マネーフエルトの案内」についてお話がありました。

②第一回二回理事会の概要について報告。特に日環協環境セミナーに各社の参加をお願いしました。

③濱地会長より「公害防止法令改正の経緯」「日環協全国セミナー」等々のお話をいただきました。

会議終了後、恒例になりました懇親会を行い各社の情報交換を行いました。

第三ブロック

ブロック長 柴田 金作
七月三十日に十社中七社の参加で行いました。

濱地会長にご出席をいただき、「水質汚濁防止法等の改正について」と題して、大谷真弓主査よりまた、「電子マネーフエルトについての説明」を廃棄物監視指導室西野友彦室長より講演をいただき、その後、理事会報告と、濱地会長より協会の現状等の説明を受けました。

会議終了後、会長を交えて懇親会を行いました。

第四ブロック

ブロック長 豊田 豪
八月三十一日に十五社中十一社の参加で行いました。

会議の内容は、①「水質汚濁防止法等の改正について」大谷真弓主査より、②「廃棄物の電子マネーフエルトについて」岩川誠技師からご説明

をいただき、その後③理事会の報告を行いました。次に④濱地会長より最近の環境測定に関する情報をお話いただき

ました。最後に次回の会議を十二月に行うことを確認し会議を終了しました。

会議後は情報交換を目的とした懇親会を行い終了となりました。

第五ブロック

ブロック長 大野 哲
八月六日午後豊橋市商工会議所にて開催いたしました。

新入会員の太平洋産業株を含めたブロック会員十九社中十六社の出席で濱地会長を含め全員で二十一名の会議でした。事業経過、各委員会等の報告を行い、日環協環境セミナーの成功に向けて、多数の参加のお願いをいたしました。また、豊橋市環境保全課水

環境グループ島田拓人氏より「土壌汚染対策法の改正について」のご講演をいただき、

濱地会長からは「大気汚染防止法及び水質汚濁防止法の一部改正について」の説明をいただきました。

会議終了後、懇親会を開催し親睦を深めました。

事務局からのお知らせ

・日環協環境セミナー全国大会
平成二十二年十月二十一日・二十二日(木金)

ウインクあいち

第一日目・特別講演三題
第二日目・技術発表会

・環境計量士等研修会

平成二十二年十一月十九日(金)

中京大学文化市民会館

・ISO/IEC17025を学ぶ

平成二十二年十一月二十六日(金)

ウインクあいち

・第一回共同実験結果検討会

平成二十二年十二月十六日(木)

中京大学文化市民会館

・SOP研修会

平成二十三年一月二十一日(金)

中京大学文化市民会館

皆様のご参加を

宜しくお願いいたします。

COP10開催記念 愛環協写真コンテスト 作品募集!!

この度、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が愛知名古屋で開催するにあたり、当協会ではその記念事業として「COP10開催記念愛環協写真コンテスト」を下記の要領で実施します。自然生物に目を向ける良い機会ですので、奮ってご応募ください。

記

【テーマ】「自然環境中の生物」(ペットや自分が育てた生物は除きます)

【応募資格】愛環協会員企業の従業員及びその家族(ただし、プロの方はご遠慮願います)

【応募期間】平成22年10月1日(金)～平成22年11月30日(火)到着分までとします。

【応募方法】応募写真は一人1作品とし、所定の「応募用紙」に必要事項を記入しご応募ください。

作品は、電子データ(JPEG形式)での応募に限ります。

電子データは、CD-Rに記録またはメール添付(サイズは1MB程度まで)で、当協会事務局までお送りください。

【各賞及び発表】入選1作品、佳作数作品を厳選し、当協会ホームページに発表します。

入選者は、当協会通常総会において表彰式を行う予定です。

※「応募用紙」や応募に際しての注意事項等については、当協会ホームページに応募要項を掲載します。

◆ ◆ ◆ 趣味のコーナー ◆ ◆ ◆

海外旅行

(社)愛知県薬剤師会

長尾 隆宏

正月明けから二月末にバーゲン価格のツアーがでるのを毎年楽しみにしており、二〇一〇年はアンコール遺跡群に行つてきました。

カンボジアの遺跡群観賞にはシエムリアップから入国するのですが、中部国際空港からはベトナム又はタイ経由での入国が多く四泊五日のツアーの場合では、入国した国の観光とカンボジアの観光を併せて行うことになるので、アンコール遺跡巡りが中途半端になると考え、インターネットで検索した結果、韓国の仁川空港経由のツアーであれば、出発日の深夜に到着でき、アンコール遺跡群を丸三日間観光できるツアーが見つかり無事催行することができました。

アジアナ航空でのフライトを満喫しシエムリアップ空港に降り立ったところ、国際空港とは思えないような小さな空港で、また最終便であったため空港内は閑散していました。

カンボジアに入国する際には、必ずビザが必要となりますが、三十分程度の遅延(現

地時間で二十四時近く)にもかわらず数人の役人達が待機していて、検閲を受けわずか数分で観光ビザ(二十US\$)を取得する事ができました。

シエムリアップ空港からは国道六号線のホテル街には距離にして六kmあまりと近く、十五分程度で到着しました。

遺跡巡りをする際には顔写真付きの入場券(一日、三日(四十US\$)、七日間のいずれか)を作成した後、遺跡を巡ることになります。遺跡入場の際には必ず検閲され、紛失すると五倍の料金をとられるので、もしも興味がある今後観光される場合にはストラップ付きのネームホルダーを是非携帯されることをお勧めします。

二月十一日(木)

九世紀〜十世紀中頃の遺跡群観光としてバコン、プリア・コー、ロレイ、東洋のモナリザといわれているデバダー像があるバンテアイ・スレイ、バライ、プラサット・クラバン、プレ・ループ中央祠堂から熱帯ジャングルに沈む夕日観賞の計七ヶ所

二月十二日(金)

十一世紀〜十二世紀中頃の遺跡群観光としてアンコール・ワット朝日観賞、アンコール・トム、バイヨン寺院、バプーオン、ピミアナカス宮殿、像のテラス、ライ王のテラス、アンコール・ワットの七ヶ所



アンコール・ワットのサンライズ



アンコール・トム

二月十三日(土)
十二世紀中頃の遺跡群観光としてバンテアイ・クデイ、タ・ケウ、タ・プローム、プリアカーン、ニヤック・ポア

ン、タ・ソムの六ヶ所の後、トンレサップ湖の夕日観賞のオプショナルツアーを追加し、ナイトマーケット散策も行い充実の三日間でした。



タ・プローム



トンレサップ湖のサンセット

カンボジアは十一月〜五月が乾季で二月はほとんど雨が降りませんが、二月上旬〜五月中旬は暑季で旅行中は連日猛暑の中の観光でした。アンコール遺跡群の中の二大遺跡としてはアンコール・ワットとアンコール・トムが

あげられます。アンコール・ワットは春分の日には太陽が中央祠堂より昇るのですが、一か月以上早かった為、遺跡の右側より昇りましたが、それでも太陽が上がってくる様は大変感銘を受けました。
参道を歩いていくと五つある尖塔の二つが重なり三つに見えるように作られています。第一回廊は東西南北にレリーフが刻まれ長編絵巻となっており、また修復が完了した第三回廊からの眺めは格別で一時間以上並び見学することができました。
タ・プローム(アンジェリーナ・ジョリー主演の映画トゥームレイダーの撮影が行われた)やタ・ソムは木に覆い尽くされていますが、樹木は高温の為、寿命が短く数百年位しか持たないので木の寿命が終われば遺跡も崩壊してしまうことにもなりかねません。またジャヤヴァルマン八世(十三世紀中盤以降)時代に宗教戦争が起こり、仏教に関わる仏陀彫像や苦行僧の像が意図的にかき削られていることが少し残念な思いがしました。
今後機会があれば世界遺産巡りとB級グルメ散策に行きたいと思っています。

測定機 関紹介

サンエイ(株)

環境事業部 環境室

環境グループ

測定分析係 清水 咲生

当社は、大正九年に刈谷市を拠点とし運送業として創業、今年九十周年を迎えました。刈谷市は当時から産業が発展し、企業を多面的にサポートすることで当社も発展してきました。

現在では互いに畑の違う、重機事業部(重量物運搬)、建設事業部(建設・土木工事)、物流事業部(物流資材製造)、サービス事業部(ビル管理等)、車両事業部(車検)、環境事業部(産廃処理)の各部門が派生し、それぞれが連携して『産業のいま』を支える仕事をしていきます。



キルン式焼却溶融炉

私の勤める環境事業部は、公害問題が明るみに出てきた昭和四十八年、産業廃棄物処理センターと開発研究室(廃棄物の成分分析)の二体制が始まりました。翌年には道路清掃などの環境整備業務を開始、続いて開発研究室は計量証明事業に登録。

現在は、産業廃棄物の処理・リサイクルを主力に、環境整備、環境測定分析の三本柱で事業を展開しています。産業廃棄物の処理・リサイクルは、キルン式焼却溶融炉で産廃をスラグにし、公共工事の材料として再資源化を行います。環境整備業務は、下水道、道路の清掃及び維持管理を展開。そして環境測定分析は、各種計量証明事業と、飲料水、悪臭、廃棄物その他定性定量分析全般、作業環境測定を行っています。当部は河川と田畑に囲まれた静かな場所であり、溶融炉は二十四時間運転で、深夜でも明かりが灯っていて、ちょっとした工場夜景スポットになっています。

測定分析係は、分析班と測定班の二つに分かれており、私は分析班に所属しています。分析班は、全員で採水・分析を兼任していて、分析は前処理

から測定までを一人で一貫してこなすシステムです。私の担当はヘキササン抽出物質、シアン化合物、フェノール、一般細菌・大腸菌と、手分析が多いため勤務時間中は動きっぱなしになります。わずかな待ち時間も惜しいので、常に二・三つの作業をうまく平行してまわすよう努めています。



筆者作業風景

測定班は、朝早く現場へ出発し、定時過ぎに帰社する仕事が多く、新入社員にとっては体が慣れるまでしんどい日々が続きます。今年に残暑がしぶとく続いたので、いつになく気を緩めずに体調管理をしていたようです。

今年度は、ダイオキシン分析と重金属分析の教育活動を行っています。これまでは、分析担当者が採水や講習などで外出する間は前任者が前処理を進めるというルールでしたが、より臨機応変に、かつ精度を確保しつ

つ分析作業の分担を行う事を目的に、仕組みの改善を始めました。今後は他の分析項目でも同じく分担制にシフトしていく予定です。現在の慣れた仕組みを変えていくのは細部まで注意が必要で、なかなか大変なことです。今後のより良い運営のため、従業員一丸となって取り組みたいと思います。



教育風景

また、当社の特徴的な活動の一つに、QC活動があります。これは、普段の作業で困っていることを話し合い、挙げられた問題点から悪さを抽出し、データに基づき対策を施し、計画的に改善を行う活動です。各事業部を含め、発表会が年二回あります。この改善が結果としてお客様に品質の良い製品(サービス)を提供することにつながってゆくと考えており、積極的に取り組んでおります。分析班では昨年、「土壌試料風乾時間の

短縮」をテーマに、風乾条件は変えず効率よく乾燥を進める設備を製作し、土壌分析納期を短縮する改善を行いました。これは全社五十サークルの中で一位の評価をいただきました。測定班では、VOC測定・分析の時間短縮をテーマに取り組み、測定点マップの作成、採取器材の固定治具を作成し、既存の作業時間を三十%低減することに成功しました。

最後に：入社三年目の私は、現在公害防止管理者、放射線主任管理者の資格取得に向けて頑張っています。この仕事は化学から法律まで幅広い知識が必要であり、毎日が勉強、勉強です。特に法律は頻繁に改正されるので、世の中の動向をいつも意識していなければなりません。まだまだ未熟な私ですが、経験を一つ一つ積み重ねて、会社と自然環境に貢献していきたいです。



測定分析係懇親会

COP10期間中に開催する連携・交流事業について

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)支援実行委員会では、COP10開催にあわせて、生物多様性に関する取組などを発表・交流する場や、一般の県民・市民の方々も楽しく学び、参加・交流できる場を下記の3会場で開催します。

いずれも入場無料で、どなたでも参加できますので、皆様是非お越しください。

1「生物多様性交流フェア」

生物多様性のために“集う”場

日時:平成22年10月11日(月・祝)～29日(金) 平日:9:30～18:30(29日(金)は15:00まで)、土日:10:00～16:00

会場:白鳥地区(名古屋市熱田区:名古屋国際会議場の隣接地)

対象:会議参加者・一般の方

内容:COP10会場(名古屋国際会議場)に隣接する白鳥地区で、生物多様性をテーマとした国際的な発表・交流展示会を開催。国内外の政府や自治体、国際機関、NGO/NPO、学術機関、企業などの様々な出展者が、生物多様性に関するプロジェクトやコンセプト、課題やアイデアをブース展示で発表。

URL:<http://www.cop10.jp/fair/>

2「地球いきものEXPO in モリコロパーク」

生物多様性を体感し“行動”する場

日時:平成22年10月9日(土)～29日(金) 10:00～16:00(ステージ・ブース展示場の主なプログラムは土・日曜日に開催)

会場:愛・地球博記念公園 大芝生広場、地球市民交流センターほか(愛知県長久手町)

対象:一般の方

内容:「自然の叡智」をテーマに2005年に開催された「愛・地球博」の理念と成果を継承する記念公園で、NGO/NPO、企業、行政機関などの様々な主体が生物多様性に関する取組などを展示・発表。

自然ゆたかな環境の中で楽しみながら生物多様性の大切さを体験し行動につなげるため、コンサート、トークショー、ブース展示、里山体感プログラム、ナチュラルスロンなどを実施。

URL:<http://www.cop10.jp/expo/>

3「COP10情報発信ステーション in オアシス21」

生物多様性とCOP10を“発信”する場

日時:平成22年10月9日(土)～29日(金) 10:00～19:00(11日(月・祝)、16日、23日(土)は20:00まで、29日(金)は18:00まで)

会場:オアシス21(名古屋市東区)

対象:一般の方

内容:県民・市民に親しまれているオアシス21をCOP10と生物多様性の情報を集約し発信する拠点として展開。会場内のステーションでは行政機関、NGO/NPO、企業などが生物多様性とCOP10に関連して開催する行事や各団体の取組などをリーフレットや映像で紹介するとともに、COP10本体会議の中継映像を放映。また、ステージではトークショーやライブ演奏、COP10ニュースや他会場の模様の放映、展示エリアでは体験型の多様なプログラムを展開。

URL:<http://www.cop10.jp/station/>

※問合せ先

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)支援実行委員会
〒460-0001 名古屋市中区三の丸三丁目2番1号 愛知県東大手庁舎
TEL: 052-972-7828, 7829
<http://www.cop10.jp/aichi-nagoya/>

環境・時の話題

「COP10 について」

いよいよこの十月に、生物多様性条約第十回締約国会議（国連地球いきもの会議、COP10）が、名古屋で開催されます。以前も本稿で概要について紹介しましたが、今回は、どんな目的でどんな議論がされるのか等について、ある程度具体的に紹介しようと思います。

どんな会議なのか？

地球いきもの会議は、一九三カ国・地域が参加する生物多様性条約の「総会」であり、一五〇カ国以上の閣僚が出席する国際会議です。日本は開催国・議長国として采配をふるい、環境相が議長になります。また、会場では、自然保護に携わる多くのNGOや企業の取り組みを紹介する様々なイベントも開催され、約八千人の来訪が見込まれています。

「生物多様性」とは、人間や動植物、微生物などのいろいろな生きものがかわりあっている多様な生態系全体の状態を示しています。人間の活動による生態系の破壊によって、生物多様性のバランスが崩れ、多くの

生きものに悪影響を及ぼします。そして人間にとっても、生態系の枯渇に向かえば、我々の生活も成り立たなくなります。

そこで、会議では、開発や気候変動などで急速に減っている生態系を守るために、どんな対策が有効であるかが話し合われます。山や海の生態系保全、外来種の侵入対策、絶滅危惧種の保護、遺伝子組み換え作物の取り扱い、これらの対策に必要な資金など、様々な「総論的」な幅広いテーマが扱われます。

名古屋で何が話し合われるのか？

生物多様性条約の目的は三つあります。

- ① 生物多様性を守る
- ② 生態系の恵みは、回復が追いつく範囲で利用していく
- ③ 植物や微生物などの生物資源を採取して利用したときは、その利益を原産国にも適切に配分する

今回の会議では、この三つの目的を包括した世界目標である「名古屋ターゲット」をまとめられるかが大きな焦点になります。名古屋ターゲットの原案として、自然生息地の損失速度や、世界の陸・海に占める保護区の割合や、増やすべき資金の規模

など、二〇二〇年までに達成すべき二十項目の目標があがっています。高い目標設定を主張するEU諸国と、高い資金協力を求める途上国との対立が議論を難しくしそうです。

もうひとつの大きな焦点は、これも条約への不参加国である米国などの先進国と途上国の利害が対立している、③の利益配分について、国際ルール「名古屋議定書」が作れるかです。先進国はなるべく企業の足かせになるルールを避けたいのに対して、途上国はなるべく多くの利益が還元される仕組みにしたいはずです。

新しい視点

条約の大きな問題点は、資金不足であることです。新たな支援策を求められる先進国の多くは、厳しい財政事情を抱えています。また、国家間の支援だけでは限界があるとも言われています。そこで注目を集めているのが、民間企業の資金の活用策です。各国の環境意識の高まりによって、企業も生態系への配慮を社会的責任のひとつとして考えるようになっていきます。

また「生物多様性の価値の価格付け」についての報告書もまとめられる予定です。「世界の

生態系の破壊による損失は、年間四二〇兆円以上」といったわかりやすい表現で、企業や消費者の認識を高めるのがねらいです。また、開発で失われた自然の面積と、別の場所で保護（オフセット）された自然の面積をクレジット（証券）化して取引する仕組みを使用した新しい市場を作るアイデアも注目される場所です。

参考資料

・朝日新聞（二〇一〇年九月四日付）
文責 大場恵史



編集後記

「水」は百薬の長。のどが渇いた時に飲む水は、どんな物よりも私たちを癒してくれる。乾いた大地に雨がしみ込むように体のすみずみにまで広がり、細胞の一つ一つが喜びの声をあげているように感じたことはないだろうか。まさに水は百薬の長であり、生命の源である。

世界レベルで水不足が深刻化している今、飲み水はWHOの管轄ではあるものの、COP10が開催されるのを契機に、水が作物を育て、人や生物を養うとすれば、これからもその恵みを享受できるように、さまざまな視点から「水」を考える機会にしていきたいものだ。

発行人 (社)愛知県環境測定分析協会
会長 濱地 光男
〒460-0022
名古屋市中区金山1-2-4
アイディエリア405号
TEL・FAX 052-321-3803
E-mail aikankyo@nifty.com
編集 (社)愛知県環境測定分析協会
広報委員会